

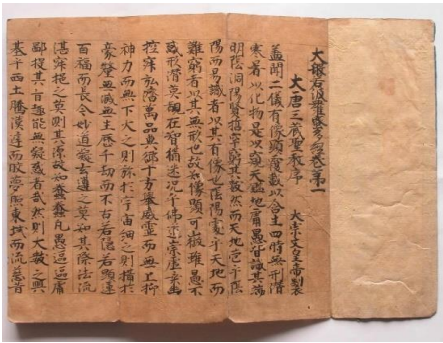
大般若波羅蜜多經 200 帖



写真提供: 井原市教育委員会

指定区分	県指定重要文化財(書跡・典籍)
読みかた	だいはんにゃはらみつたきょう
所在地	井原市野上町
指定年月日	令和6年3月15日
解説	大般若波羅蜜多經は、唐の玄奘三蔵(げんじょうさんぞう)が集大成した漢訳の大乗仏教の經典で、16部、600 巻からなる。 奈良時代以降、国家鎮護のための悔過増益(けかぞうえき)を期待する大般若經の転読が南都の有力な寺院を中心に行われ、次第に地方にも広がった。本大般若經が伝来した千手院は、明治初年に廃寺となった頂見山頂見寺(いたみざんちようけんじ)の坊の一つである。 千手院には、大般若經の巻1から巻 200 までの 200帖が、10 帖ごとに経帙(きょうちつ)に収められ、計 20 の帙は唐櫃(からびつ)に収められて伝わる。 各巻奥書から、本大般若經は康暦(こうりゃく)2(1380)年頃から駅里庄の賀良山極樂寺(がりょうざんごくらくじ)で製作され、千手院伝来の 200 帖は、良憲ら5人の僧が書写に当たったと考えられる。 本大般若經は、年代も含めた製作状況、改装時期と移動の履歴が判明し、かつ特定の巻数がまとまって伝わる重要な遺例で、製作当時の地域の様相を窺わせる点で歴史資料としても重要である。
アクセス方法	(1)井原駅から車で20分 (2)笠岡ICから車で30分
公開状況	非公開※見学希望は要連絡
設備	駐車場  トイレ 
備考	

きっずページ



写真提供: 井原市教育委員会

していくぶん (指定区分)	県指定重要文化財(書跡・典籍)
ぶんかざいめい (文化財名)	大般若波羅蜜多經 200 帖
よみかた	だいはんにやはらみつたきょう
しょざいち (所在地)	井原市野上町
していつたひ (指定した日)	令和6年3月15日
せつめい	大般若波羅蜜多經は、唐の玄奘三蔵(げんじょうさんぞう)が集大成した仏教經典(ぶつきょうきょうてん)で、16部、600 巻からなります。 千手院には巻1から巻 200までが伝わります。 康暦(こうりゃく)2(1380)年頃から駅里庄の賀良山極樂寺(がりょうざんごくらくじ)で製作され、千手院伝来の 200 帖(ちょう)は、良憲ら5人の僧が書写したと考えられます。 この大般若經(だいはんにやきょう)は、年代も含めた製作状況、改装時期と移動の履歴が判明し、かつ特定の巻数がまとまって伝わる重要な遺例です。